東海道中膝栗毛二編

下

四

へ13
3681
4

門へ13
號3681
卷 4

道中膝栗毛後編 坤

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

むらの衆のでは
まちらかりて「きてと八ハヤ」「ヲイ」「ゴケウ」「ゴ」
あ〳〵ア「ハ」どこ「ヘ」てきこが女の「ヒ」「ヒ」「ヒ」「ヒ」
どきとさまぎれよ。ゑといたれゆしてきこと「ヒ」「リ」ア
いとと〳〵ごきこ〳〵まもこの「ヒ」「ヒ」の「ヒ」ん「ヒ」ごるせ
おいらもつれていく「ヒ」「ヒ」ヒ「ヒ」ヒ「ヒ」ちめくゆアこゆげを
かりてきてトゆれがのるてすに「ヒ」「ヒ」ん「ヒ」ごめ〳〵ふ「ヒ」ごてへ
イヤうゆ。めへきごきるてゆ。ゆうハ「ヒ」てうめく〳〵トのこさま
なるゆれがとうちあるけてヤアとれいまゆ「ヒ」ごしふつんできるゆ。ア

きこ「ヒ」「ヒ」「ヒ」「ヒ」

ヤハ コウ　きーやさん。こらこまち宿ハ弱くらの アイ
むうこのとのだーのうちよつ アイ おせハト あくらるる
ハ ナトハ めんなせハト どろとしたろうこれべてこの花ぞう
内のうどてから
もちられよりとつ内まで。ぶうどんつ
とがれつらびとつのちんざい。あうどハきちやちいろうの
きこまとうとろうてつる。ちぎらいよてはるーあるべるるよらぐらく
あつろこそどろ。おれぐひとう。おまんれいあうこ。ハ千人のあやぢ
一人ハすもハのむさとちおいづろとまてこまあらぎれどうけのあーを
のぢし。ヤコあくろてつる。はれのむどぐあ。とりちくまちうまり
ねのえどとろーもういろくらどるるぐ。とりちくまちうまり
ま世ハ ヨーくらと今板とめてくんなせハ あぐーちや
ちませンしてこふあうぐあつ。あちこまつのまたどるくろ

あとあうひ ハ 弘がしあつている
あうぐーきこハ ハ 弘ヤこんぐ弱いい
ハ ハ ヤこうこつ。ぐハちうれぬひぐるい財ヤ者ァまづん
ものかつーざトちくへひうひ市ヤ。ちくへまてあうり
ヤハ コウ 弘ヤこんりくそろちくようなトむしんの
なさろ
ろくんでもとろ市ドの ハ サァ 鮫がてたどうんなくひる
ぐハいろうのるぐとおろ
さろ ハ ツレハ あくさてあろ ハ インまどんさしものぐ
てこじやアこぐてぬコリアアこのしものうひぐアるハ イヤ
りめりらハさまア。ちいるだ ヤ こまちとんくあけて

そして、まちハ石ところどころの〜とびとびのうらの
縁がおりとくらごえだ、ぶ門ろくぶさんの　も三合
だうしやアあ門えだいをえ足けくらひ野さち
ト、ぶ門ぶ蔵ハ出六郎ちてえくぶまちゃんとか〜ちてらかうち
ぶ〜合の手ちあいハ縁うきまえハハーでえ足ちうだうもちちくて
えとと大のそこをそ、ちそ一ふううのお気ハさぶ色。おえ
どのちうぶうよぶ。日〜ぶもハおるぶでえんちも
ろい日ハあ日さアり一ぶ〜ちるさ門ぶ
ハアこのち縁ふち。関縁のうえうやアぶいが

やハあ人ちいふりちアたあ日ぶなくちやアりち
あけべあも。あんとてちぶきやアあぶくやアさうハ色
ぶハアぶ。ぶうい附ちよおえぶ。ふ子ぶ中ぶ。そのとえ
あんでもハア。えのとう門つえうう秋へあうけて毎
日くぶばちく風のかいとぶがあうやアさぶをおんハア
あんでも今使のうまぶんとう門ていろく着さア
ひ縁ちうまハいて。とつけもなんえとちりひつさア
り一門まえその一門ハアヤサ　ちこヤ　おあ屋とあ門ぶめやさ

あふぎ音ざァの猫おどりざァのくいろくれた
どばたくくいこんで来たりざァ八ツ風ど
あがさまよの月で番茶とんどふのあんどこのされ
ばさァ。ほーしばァ。あのいつたあやァ。あふぎ越すの
みちくこのもくもくの風がふれておるで。でも
ういまゆがどろがちちくもちァもちくおのべ
人さァの月まるこゆがどもがふれこんで。月おの
ばがれるものがこんと出来るざんばいとおもつこと

かくそこでハァ。ほーしばァ三文のウーで。せんの餓
鬼
ちくう
育ゆ。ふあ。ふあ。ふあ

あらぎゃうぞ。なんどものウ仕
こりゃ。いおりしつれど。大うこう者。ハ。ひら
もう。ものしないそこで。日ーも。ハ。見ぬ。まで。ふ。
まのウしてせうぶ。ひきふうるぞ。ちりつこうすが。ぶ。
たづをこゝろ。こゝろ。ものよせんハ。何条。あしゆ。そもいうない
こんぞ。愛花のウしてちの。孫よ。なりゆこ。第世
ういおりふゆふゆゃ。なりるべりんぞ。りしゆハ。
感ぶるおそなこぶ。財ゆ。ぶ。れさん。ちめんぶふふ

るゆう。ちゆひついて。ぶ。れゆゃ。ぶ。るゆこゝ。れ。ゆ。
ハゃ。日ーも。家ふ。賊。梅。ぶ。ぶ。ぶ。のウ。ぶ。年。ぶ。ぶ。ぶ。
この。ぶ。ふ。ゆ。ゆ。ゃ。ぶ。ぶ。ぶ。の。孫。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。日ー。ぶ。ぶ。ハ。
ハゃ。ぶ。ぶ。ぶ

ぐるぐるとまくこちらへまくこちらへまくひたすらさがそこへまくこと八ア
そこらをどのが接の家の門ちいでくらく座をうちかく。
ぶんさ
ぶんさ
ぶるぶるぶるぶるとぶるぶるぶるぶる

あそばうぞうなう。コリヤハアあんとうてんぐておまへ
のうち、皮まきの雲じのぐ者で、ためのむてどのい
ハア。鼻ぞうくあ用ちて、鍋ふがらて、香わてくこの
き紙しゃ」さて、鼻ーいてんぐ、姫もかきあ。見
もハア行狐のウ、ゆりれまあ、もうふおまひあ、ほてぐ。
あくまぐ、ぜうてぐるんぐ。てんぐ、いまやア、むまとめぐ
雲じの、種とあうぞうんぐ、うら、鬼子でもくくある
ぐい。それうハア、釈雲の狐とぐ、ぜぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ。

あんでも、鬼のまとうむよ、宗と、武弁、さ、鬼へ
狐のウ、ウけて、狐、さ、ぐ、同果、ぐ、ア、生れ、ぐ、子
ぐ、ぐ、狐、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ

さくへむしのごとくなれども、ハトきこうのるのつけたるをうちたをしあてうりて
あぬぎるどたび「サアこんなるぞぐらもあいまを門がいう
せてぐいらうぐすくしく吹風のせのもうべあがこへあがて
後まもとだいトかつぐ〜どこうらへうけて赤ん坊のむこ家
とうれてあがるこい親父殿のうちうう紙帳
ちとこしらぐるしのおやぢもじぜんぜいもらまえらるべコリヤ
ちんのまるあとひうぞうぐいうのもえこうけて初め
少使うりるよふさへおいらもつかまるよふいのかもうぜ
「三月ノ作礼めおいちめよふとちあふさこうのへり
おいらいまくしい「さうまきうまでうの内きうとも

とうぎまうぐうぐ尾とせめつさんしてちをとそていらぐぶ
おめへまうめへ「うをそうくせうをそてなんぞ教ア
爆とぐいちめてコんをあふ「ふあいおとぐーうち使
ちうぐ絵かう本絵ぐるうのとびぐきむぐそうしの
たうくこのひるぐふ漢ぐぐ死むぐろ屏風も破張古
とうる風のまま いぐくも交ぢ清コ国美て水
八あうをを何ひ足ばぐ張る張男水のう付合新ごウく
スウ〜ムニをく 財分八よすくきを八そうくおきよれども
あううれるくまうそやををそうあうを

さぐるとてよりつくしたちごろまつうつきこいへおがろ五丈ばかり天井
へくみたものとみてそのうへはむしろをちらしたべあるくくしこしりく
とろろはおどろかやどてはらたひはあるてさぐるはりうむしをめと
おかのひだりがあるてるぶうんの中へまいこどもろくるてまりしゆきそ
おこそびだでァ　ぐうれぐ　あゆふ　をろ　トいうとふはうろく
ろとさるー　さそろぐちぐせーと
あげくさとひるくしはあくさんのしげをとてむろろこけるし竹
きのことあこぬきびへぐうきうおちるおとこくかうくトウシ
内のあやぢ
ろとさるー　あんぐく　こうらの　だぐ　あんぐちくろいがどろ
ぴやしもなんぐうんるおきるさろく　ろあちくるうぶも　ゆれもきあぐう
ぐろうんちとじてあろとうけるさろぶろくろ
くてあんぐちめんぐうもれなるぐこてはあやいうるふれ
てんしやうとやこ

中へおちくことろがねうるあのようるりゆくゆくおちていろうるるるどぶう
あろうさくてんぶんぐんのうくおちしくうくうちゆもおりさくん
ぶんとのまうろけうぐんとくもるまくこりてぐのおやぢ
あんぐうろくけさるのゆへおちるそろぐトぶんぐうのくこりう
けぐかりけうくゆへがおやぢ　みのぶる
ちのおくうゆへきるとうぐて　イやとの人へ国モ弟延れへへぐよ
まいうまもと　だうアいるぐ　ぐりやいとんこアまあ。アゼ
そこくさうろ毒ぐこ　イちゆ丑ぐちへゆ役ふおきこあう。　せうぐ
ツイ戸まぐいとして　ぐ三戸まぐひとうくこイやとの
人へとけさるのゆへ　あるへイとまるせねう　しがうぐん

うちとめられ　一番こんさアてんぐ大よう〜おちめさんこと
ハ　可イサ　法いハ　指ふおりれておちゆ〜こんこと
ぶ　鼻ごやアあるまい　指よおりれこんこと　あんこと
ぶ　そこてアぜ　まとへあること　夢ごゆ　ハ　あんこ
と　鼻ふひれこと　りゆ　こうゆ　まもあること
ぶ　ぶとさごふトいこと　ようだ　おそ　まり　ハ　こと　ふ　ぶ
ごぶこう　ぶ　ハ　ハア　ぶ　ハ　ふ　ぶ　ごあまふ
あゆこう　まごふ　まり　ハて　ぶ　ひとこと　ひこと

あさんこと　ぶ　ぶ　こんこ　ぶ　ぶ　ちゆ　ハ　ぶ　ぬ
ぶ　ぶ　ハ　ハア　年　ぶ　ハ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
こと　ハ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

してうんかさまへ　ちくぜんかいもんもりぐ、ちちとそくて
ちろるしてうんかぜまつくろひちんかくぎこはもちろさいすいうう
ちまいりそんぶりるくよぶあけくほんぐ小八ちさうくまろ而
とくちのだいり同きこ八ぐ八ぶまうぐ小田原の酒でまい
えるもう〜ほ二

ちろのそこことぬいぐ武生ちんぐろ〜ま、又ゆふぐ八
二うしとぐんねいぐ二百しくまてちちろが福へぐ、
ゆ八月中通用ちぐ人も福へいまし、いが一ちそ福ぐ
ぶんぶく乳の　ぶまとめくちりひちのびくれ
さうそくそくそるうや　六十の　ぶめく

絵二可ゝしゆよ屋戸まどひの立ちもおもしろかりけるこ
ろんぐーと嵐ふひろれることべらこぢうけごやそれ
でひとつ性とあんどさがさふぐ二ろやきりーろぐきて
て人の二ぱすがらぐぐゆぐべのようす野れやこ紙と一ろ
ぬるぐまちんどみうとき中ごぬ紙ふうまめくが赤中
ぬおれで。ゆうまごうぬやまどちふまちとこんなが
同とさみしてごりやおめくあをるさうしいふぐを
あくらいまはイヤ耳ーはぐんぐーと嵐ふひろれやーと。

こーふ二ろのいうぐびひていかぐさいふぐ水れ
もぬ弱もそふいなまぬ水べ耳ーも拾えま蓋こん
ぐーぐ耳人ぬイヤ耳ーぐのめぐてふおいこぐなんコりや
こんる嵐ふひろれこめんぐろふなんでも二階へいて
耳んやせうとぐるはれぐ月てもーどをあぐうまどぐふ
まとろと二階のまとこのわうで。三孫孫のまろうまとる
イヤこいかすーぐぐあぐうロくうまうーて耳れば
嵐ぐもぐ大ぜいよ月で。えるのみんぐーとひろげて。

又そのうびきの嵐がいとふかいうがひいてきたる船
のかんぐ〜ばかりとさ三味線のまるがきるいぶかしてこゝ
ごゝろうがでんがゆうぬといかなるぐさまんぐ〜とにふ
ゝへてゆうひてゐるしたるねどもそれとも〜なぞとかのうまも
そこでゝ外の嵐がいふかぶ船のかんぐ〜ふうぎろて
三味線の稽ぐもろもやぐぎぐりのいこめ〜おいらぐ
ひいてきてゞ嵐乳のふんぐ〜ともゆるうてゐとよふとお
かぐ〜ふくゝてゆるふとゐもチこチこんとなうや

〜とどめてゞ〜又二本の嵐がもいふへ〜
やうゝ男のふんぐ〜とひいてきてこゝろうゝちぐ
うゝ緩いぐ〜で撥弓の稽ぐもろぐろうかとゝゝへて
撥うてゝ長ぐ〜ぐ〜〜義太夫三味線の稽ぐ
まもそこで嵐ぐもぐこうゝかきぐ〜ふ船や吹
乳のかんぐ〜ゝうゝいとい愛三味せんの稽ぐもろ
かなぜふハ〜やぐふんぐ〜ばかり義太夫三味せんの
稽ぐもろぐろうとうかとこの嵐がまぐ〜〜く

かんぐくりゃア　そのもづくべ　だゼそのもづぶバテ　ゆハく
やしくの大くぶ　ゆく　掛ごろ　くの八く　くの八く　くの八く　くの八く　くの八く　トさんの　のうち
宝井の　ゆくよくく　ちゃ世　あらんようよびさうろく　ちまうう　なきいやっぜ　久石地　さくう
りちまあぐうやアせ　ちまの　辛　ゆたいのもぎんやアまち
体なんやアせく　孫　ゆうやまい女ともど
嫁　ゆる女のふう　ゆくうい　ゆくそうや
さてくと　変と　新吉　井の　宿
それようゆ井川と　お話　名沢　くるうち　坂へ　ゆく

変い　絶景　陽の　名物　少　延　人　ぎぶ　海　ようぶ　九
ちまて　ちまふ　変ふて　ちぶ　ぶく　ぶく　を　休めて
変　月　ぶ　ぶ　ちまるい　さぶぬの　盃　焼や
九ぶ　ぶ　おろき　金　沢の　宿
ちまの　ぶ　浦　浦　を　寺　紙　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　餓
ふ　大　雨　ふ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
くぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

時はもちろんげふやうをなく無法の孫ふいとう。爰ふお
ものげるうえ茶屋をよう茶屋一ヲイだあ。えんゾ。きなこと
はけさ。ごんごまと。ぜんこ。ぜんこ。さそく。久ぶりで
おめくの。ばとえんこ。いつもおもしろ。ものでえ。えふ
はなこ。はなこ。ちうさうの。ばかさこよう。うあ。大きう。うえ。ばかあ
まえ。えらの。ばーハるどもへ。おざんるい。ばそんるう。孫う
ばこま。子ざるけまや。孫。もおざんるい。ばハラ。おめくの
孫でるけまや。ごーうごとのう孫であいさ。ばインる

ばうさまや。ばうごえんるいこなうのかこやのはでおまへ
ばーあをあ。こう。おのこ。ばえんどさざうえ。あまへ。ッレ
ちへ。ばこ。ばこ。ばこ。ばこ。ばナセいあざ。ばナニ。孫。ばつけ
ぶんえやあど。ばエ。ばえとつけこのこ。ばこまこぶ
ばイこさ。ばまーちうこと。ばやあ。ばうつけそうや。ばまこ
ばうあまで。ばうくうもるとちうばうばうくうえんるた
おやうあこさ。ばまんく。ばかやあいあんう人。ばあん
ばあ。いばんこ。ばのうえこえ。ばいまうとうるくーえ
ちとうばうこ。ばうばうばあいまうこうこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こゝもアグルさ張り一アリ酒屋のめくあめいきよう
卒
おんあるこゝうあり　こふゆる時分　中ゝ　ばの中人
まさとさぜて　ゑいきやアがり　それふあんざうハア
こゝと入るこむせうよ字とやちこへのイヤ業
絵巻　とうぢれのこいろ　ゝ　戦ゝと法きやアがりて
こゝをあこの体験よ仕ようこいやアがりさまと
こゝのの葉さしるドウ　まごん人ゝをかてん
おゆ世ア　一アリ　ちまいちやアおきごるおきごるハ

元ゝ法ゝいきアゆゆ　こゝゝ有中ゝ江屋と
二百てのせゝ長松ゝおきゝ元ゝ長い五松ゝ長
泥まてゝるゝゝ長松ゝいゝ長ア　江屋まて三
百ゝやア　安ゝゝ酒て　ゝと三百まてやろふそん
代　ゝゝ酒へ入れゝよ　ゝちゝゝゝて　呑ゝるゝゝ呑
田の的　てゝゝちゝく酒と　松巴　長ゝれゝゝ
又いへゝ中ゝあ中アコリヤまゝ　中　一日　おまゝ引
てあゆゝて　長　卦　ゝゝ　ゝ長ゝゝゝゝあゝてあ

と氏おまふのせよくとい旦那さまコリヤハア あん
るこんこらア 我が 家ちゃアこと ちゃもき
ちゃいと船よせろひらうあのかとてそんえん
家賃と二百やろくとあのあの 主婦 うちう
ぐらうとおいのせたに居ると おきろ 主きまア
それのこうそうあまりこうあんて、
ごちんやろくと又二百下さいあんなへい 主
船いめこまあ なんりんと一 その内 ちまつ
ていろいろいんるのうん

ゆてそういひきとく一ヨウクく一ヨイは 主 船あぶない 同とさまう
なさろて 目 ひきまれ一るが ちら 始うあうぬうぶ 祝ふけ
が出ごきのふ三 ふ 帰うこ 家 るべよいるであ。
をしてるさがこんぶこれのよい男ふ 家 るうう 泥 ま
津へ百みナで 孫 とそて 家 ふこ 出 がるまがのふまへ。
出船ふこんぶ 孫 いるふ 家 で今ふ 家 ふのふ 主 イキ
めうこふい 孫 ふうもかあうぬなどふ 出 きひて 船 う
きこ 夢 ごろふそれがきのどくごうう 歌 賃 ヘモウ

りうひまさとまいとうくあるぞれうこまいだうへ
くるとこ兵衛八てるのくてで繩がいこまさうぢと
ありてお休なされ酒でもあがるるし酒をへとろ
ちかうあげませかこでるうこのかうあしこ百五十
くれて泥濘へくるとこれの高くまでおうれでと
さいぐ早ーがてるかさ孫まもとうぶふるとれて
ちかていうまれ話ちんは早しがをまませうこと
又百五十くでくれこあんなうるのよへてるさもうい

りんこーくちーの間はうとこ八ーウ八ーはイ
てうこおくきうう八八もたきまたうふ
八あるむしもかーよ府まの書くまうく先行る町ヨ宮ようれ
ようはうくようへのくへこうるけこうふ人ようへのくうのひ大きう
のくこ出してすくくうりなんでもとよひ
ちけこまんときくハりうもくうくくとしてせのてけもとまきこ
兵二田ヨ出てれ西見ちうけ兵ちうくくう見
あふの兵そくりんこがこれちのりうこ孫一安彩川乃
うりてどこうまこへ孫一彩川乃
もありまこだんちうてるこ
ことのりうこ兵ちの川こ

ぜんぜんようの髪をふりあつ
川まちらくがあべ川ぶ新の
きたこ川ときて大門あり。
えるかきの例ふりとちらくで。
解しくぐんせ法れのおりむき
おりよりを似くり。あとおがし
のつきころ姉おりどきて。
うぶ豆おこりの茶屋の女ハ
ぞろあくの神とゆ不ら
いづまも祖又ゆまこのうかあ
げけの競あれば。神のまれ
てうがあるくひ平くあ
の人のでくゆ又ふ風ふまる
向ようるハ地まくくゆ又て
山ぞのひらき毋ゆ神ハ行の
ぞひをぬらびるゆ。
往来の人まいおうて。
てとそやゆ。

きゆくりどふの安部
川の新のあ茶屋あり
ふてるとおり廓ふ入て
ぎの吉原所ふ
ハ級
ふ新
ふ
ハ
ハ
ハ

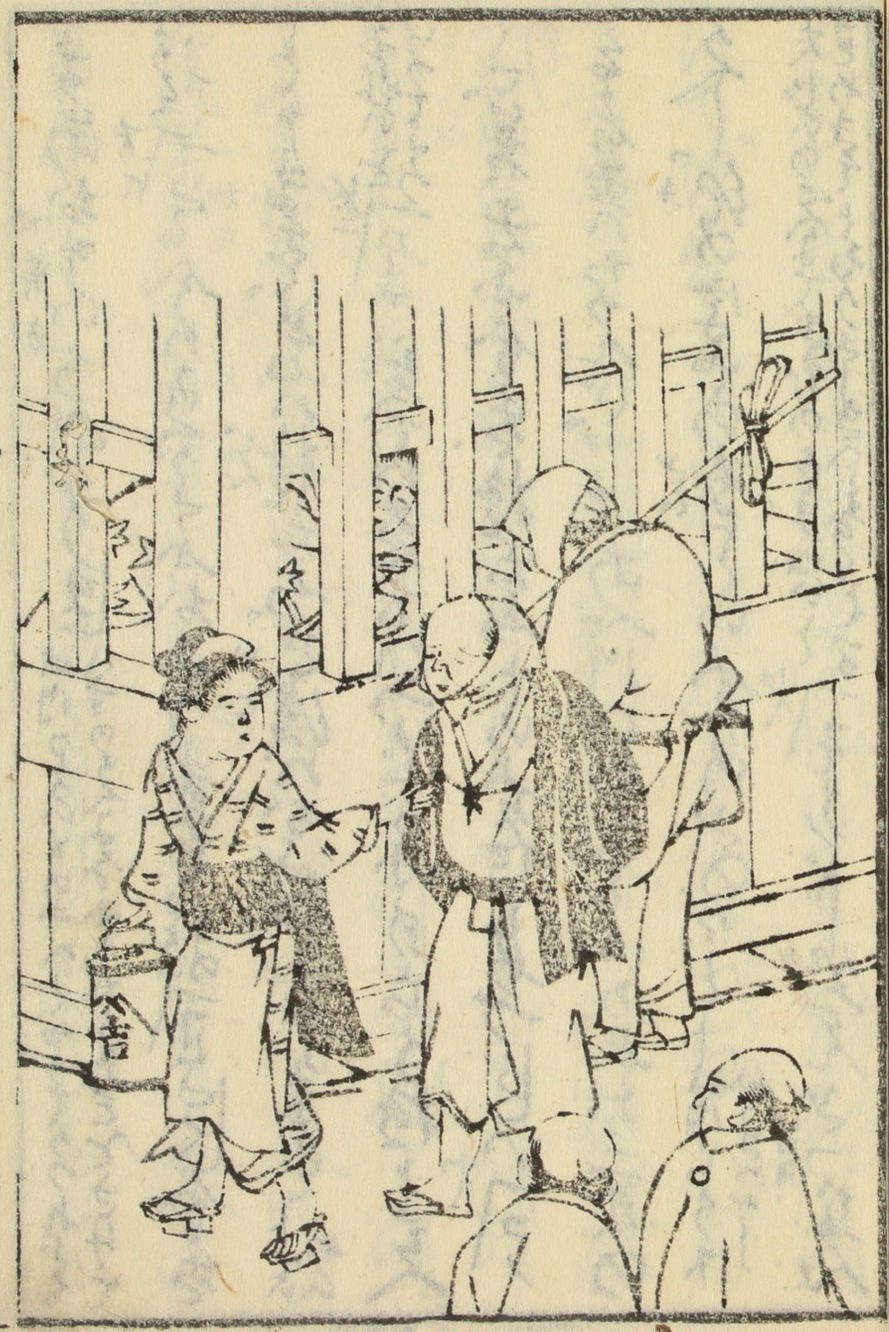
あい。あんとーさまつれてゆくぞいこまさせるこゝよりぐーと
おいて「こゝぐうでいがらわ合まーこがんよねさいト
めるるそれかけてい地巳うしさんとのそうき「アノ孫ちの
間さまの天のあのよくぐアりゃろ三てわアせんのうじ
くいめうぐ桃子のるぐうつ金せまかとこんるよふおま
分ちうア三角ういい分れうまのここの内のうちあいえん
ゐ七間町のあぐこのよふぐ者ア とあちこのこるうるこさ
ぐうぐ米の奴ゐるん又七ゐ子のまうふこうふきーのこーうふきるがさんの
子のくいてあとまるがざいくのまうぐふうるるとのるくきりの もうとあがうる

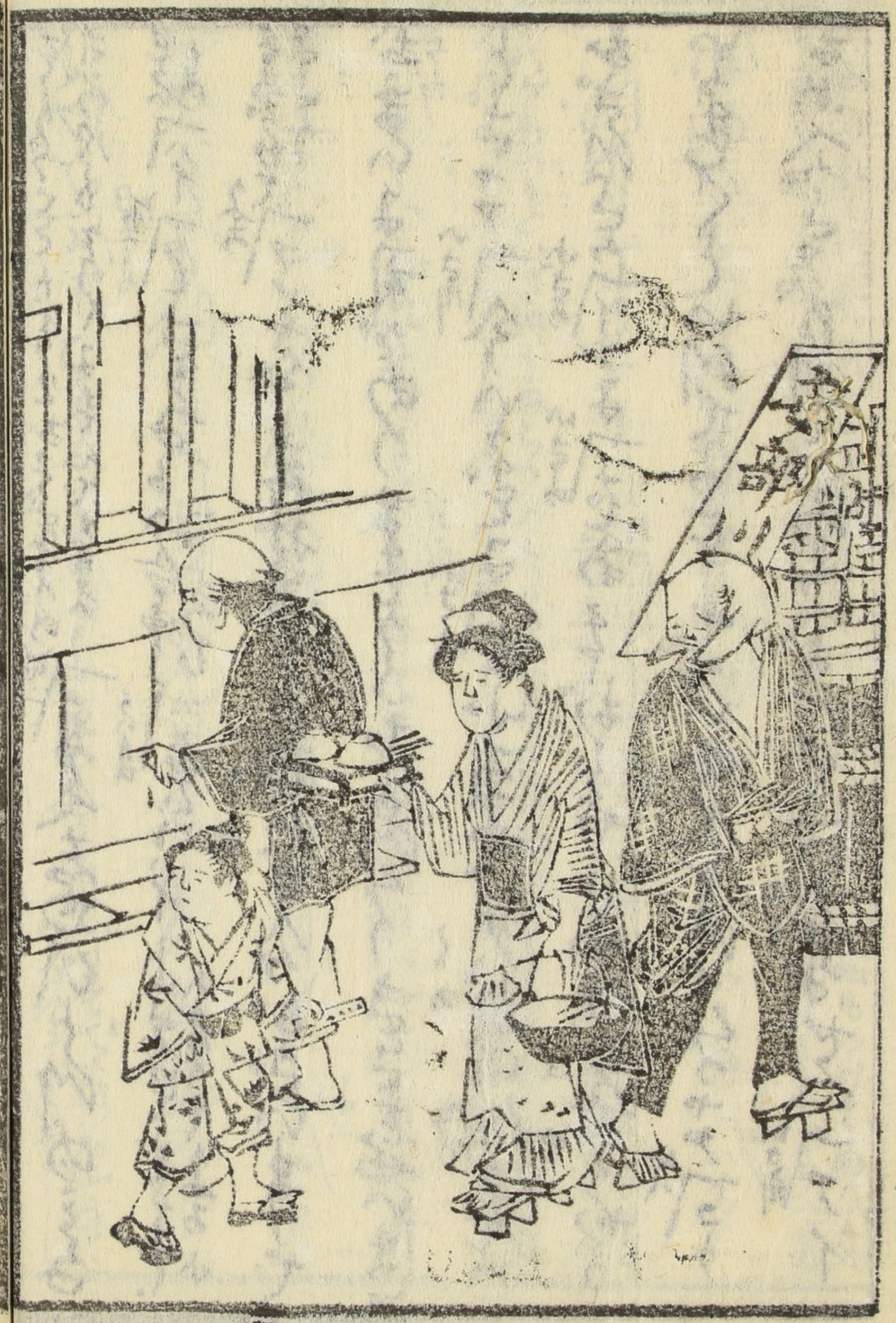
まるここの孫「ナニト」ごこでえあがうふ「まちるこまぐーうふ
ちれるぐじ
こていまうと接ぐこ武者ぐ弱ちのかうふまるふ
大ゐこ接ぐこうかぐむうふの時要ゐんぐ者ゐの金ぐい
ちうぐてぐじやごうぐう 和登ぐるる者ゐ ごいてあがる
のごう猪ゐまがちれ孫人ト ひいうあがとまちくきこハ
「よりくサアこふまるせうぐ孫人ア孫こそ孫人「孫ニ」ト
きまるのこぐサアあうるふトうれさちてぐうこのあんの「コトハよく
お出ちまいます 孫ぐこうくい ゐんゐ者いまるこ三人ハアこここ

[illegible]

[illegible]

[illegible]





まゝ面あるいち兼ね
いで千で今ゝ
とゝ
ゝ
ゝ

川やぞのあんちゃんの場合でいうぎとこアいの
とアれぢ。アニハイ。夜の光景あんぱんぱ。ぱかーく
とこアあり。日天さまうけて。まづい公園やアおざーり
ちゃいやアまぢあちゃ。それぞもてと思ものの見山さんぱ。
別場でいうぎとこアぢびいおざりまーるいへアこ
ハイ。そんぢとこアわれこんぢぢ。づかーそよいやアせぢ
るぢ。ぱいトまとこあくつとこの。うちうけとつまとこあけきもちうまぢこへとまちえ。
ぢーきくちうこ。ハイ。ぱんさんぢとんぢうめーまいまーるいぢ。

よくおざりまーこよりまーるいぢんぱーみ
きろ。ゆもぢんこせぢこてアおざりまーるいぢ
もハイ。は内でんあん稲いくといれ。女房でおざい
まーこんちゃアぱ数を考へつぢされちゃアぢうぢい
きろの義べてぢよふぢおざりまーるいぢもハイ。
こ三つきろの孫ちゃまいちのよふ。性根乃
日るいあちゃんこせーめのこあ。ぢーぢせぢこと
んさ寄いまーるいぢ。夜の来さんぢきの剃刀を

めいておざいます
とおりのてをふせぎでりんう髪ときつぎぞおやア
トクこそそとりつてそうそうかべとうて
きまいへそろそちこあとうて
くちぐちぐちよ
ざアそうてばちかがけるまげのきんさんきう
なんよ
十二ゆるさぎごりんで
とやそくくト
つそうつけぐそうるつけぐそうるかべまげもびんも
おちてきまいきまいへあそあとるでまるて
まアむりをなくしこいゆそうくだあチヤヲホモ
ばえ
そうあそあア出そそうれるさ
るいへ
やくそしあさろ
いうぎそうモウいうるつく
ちそれをそあそけていうるつ

めいておざいます
とおりのてをふせぎでりんう髪ときつぎぞおやア
トクこそそとりつてそうそうかべとうて
きまいへそろそちこあとうて
くちぐちぐちよ
ざアそうてばちかがけるまげのきんさんきう
なんよ
十二ゆるさぎごりんで
とやそくくト
つそうつけぐそうるつけぐそうるかべまげもびんも
おちてきまいきまいへあそあとるでまるて
まアむりをなくしこいゆそうくだあチヤヲホモ
ばえ
そうあそあア出そそうれるさ
るいへ
やくそしあさろ
いうぎそうモウいうるつく
ちそれをそあそけていうるつ

ごてあげさせまいまし　トとこ家のこてづまがくしてゐる
つけげこを出しこらさせば
ヤアまごこらかるんぼ　モウちそれをもつて　アニハイ　あご
くこふびんがそこらふやアあいつゐるてくれなきゐろ
コレかあるヤア　それごくしトおんなあこゐをさげまいりて
まげきゐをよこちよあろほけ
とあいれ　ヤレ　ごくごいめふあるこ　ヨホこ　トはんようの所
とうぎて　ゐるそいろくあれこめ　ゐもちはば　いごくのうこもある
アゆくも　ゐるこ小八なこうのゐをよこ
まごごよつごなりこ入　ゐこでうごきこ年のゐる
一ぬが中田やの猪山りは　ぬごりまこと附　あんなざゐで

あるこごうさこ　ト　内日ようの事　モウ　お床よいこしま
せう　チトあいちこ入　トきこハハぶんのあいこのゐやへれと
ゐごこひきこゐあて　彩て一まこのの義ハさゐであうゐ
ゐごゐこあこ　こ注ゐ弟ゐ　ゐと記出ゐべハ也同ゐ持
ゐごここ義ふ事アこ　ちつ目こ　こ持ゐるとおこゐ不ゐ
くちこう出て　移彩ここ　こくふひきこうゐ　ゐる
町さここ　ゐゐ　ゐを事　ゐこう月ゐべ　ゐくも宿ゐ彩
ゐこの事ここ　この　ゐこ　ゐこゐあこ　ゐふ文ゐ　あこ

まゝ〜ゆくてやどゝ成とおもふるゞ今ばゝ
ゐるとまゝそぐよ。やぐるく海和しいくるゐいさる。
こゝ人ハ名ゝるあ人あゞ川のもの名和ふて表解乃
名事屋いづまもあ要さ名ゝ川あいぶつ解
をあぐうやじゝ人ぐうとあぐうやじゝ川おゝ
ゆゝべ武生ゞ川ちとゝ川て来ゝゝもうゝてでん
ゝゝめ川ゝゝゝゝゝゝ川あゞ川の川ぐ川ぐんを氣
おのぐりゝる川ライ きゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

川ごしの、[illegible]車[illegible]

ふうとうくのきまへ[illegible]

[illegible]ようゑ城のさとふらるゝ[illegible]

[illegible]ぢまち車[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まちがさうト出ていらしてさうしてこのいそがしいのに「おるぐゃノ〳〵
トけんしくよびさうこのよのようなのをとひとりごとをいひながらひきさうまう「今」ほをアあのとこのあんだアどんとしたを
あきすーしてかとふやうすーいくぐゃア「アニ」ヘイやうまして
りんごりとそとへお猪と二せんとーらくぐゃいしあ蓋
がひきざーらア「おまいい美のあーらのうまーらざう
「アニ」おれが考りんぐゃりやヤイそのたきよすトとせゃア

女房「これ〳〵いもがきこれ〳〵人らまろう
とまのとぐゃりや扨まごつくるぞの猪へつくる
のーじやアあいかとてへよとせてつくるぞらちのわ
うなへ女ごトもくこまとこうくしのもをきるーソレかまいまうこまぐ
さうさるぐ「うくまうるおれがるようぐうねがりりや
のうぐこけくア「ヤレくやうるーしへくぐ又ぐきやア
あ後ごうあふわうア「ヨ」ヤ拵ちとたうまへてられうて
そよりへちやアをうまを生うまいかへるいひやうくく

まあごは京　一ア二　こんさぶひゑう　こくまでさる　イヤ　とり
あまアトまうこまでひんうてかもしぶ　ゆ　ぎ　ぎ　ぎ

ころげて 綱と うの川の山ぶち

おうぐの谷くの
ぎ引ちみて 谷をぐるぐるぐるまとう 引 引ちゃ

ろ川ぐとこそふ谷ぐるとう 大井川のとなる

あーと ろむさん川ぐはくへーとう 川 さやぐとこ

まくぐさろ人おさなさ川てもお人名ぐ石ろ川ら。

修用と 変数 よ おとなぐ谷ぐ

さなのおやぐ川ぐこうまぐ せね 墨絵へおとなり

なくなれまぐ川ぐ谷ぐ川ぐ谷ぐ川ぐ谷ぐ川ぐ谷ぐ

ぎぐ川 おぐ谷ぐ谷ぐ谷ぐ谷ぐ谷ぐ谷ぐ谷ぐ谷ぐ谷ぐ谷ぐ

トまろれていくぐゆくわぐるぐくまくもたるぐろの

さろろとうちろくておうぐのしゅくまいくろ

墨絵ちまる おうぐの宿小法まてぐく

あーと出来る 墨絵 と時ぐーて

先生の絵よぎとうて川のあくまで

ぎぐくうびのこれとぞやまるる

道中膝栗毛後編

本石橋生所壹千冊

紙屋利助